



今回は、持続可能な開発目標（SDGs）に資する政策を立案する際には、どのような点に気をつければ良いのか考えていきたい。

いくつものポイントはありますが、「経済・社会・環境」という3側面の統合的な解決につながるか、という視点で政策を捉えることが必要だろう。例えば、「廃棄物の削減」という課題は環境部門が担当する……といったように、行政組織には明確な役割分担がある。したがって、その解決策は、どうしても同じ分野の中（部署内）で検討されてしまう。

しかし、前回説明したように、17あるSDGsのゴールはそれぞれ独立しているわけではない。

SDGsでまちの未来を描く④

慶応大学大学院特任助教

高木 超

く、相互に影響し合っている。それを17のゴールよりも少し抽象度が高い「経済・社会・環境」という捉え方をすると、政策を検討する際に分かりやすい。

今回は、ひとつの事例として、SDGsの推進に芸術の力を活用する京都府亀岡市（注）の取り組みを紹介したい。

亀岡市が通年で実施している「かめおか霧の芸術祭」の中で、2019年10月にアーティストと連携し、市内にあるパラグライダースクールで使用され廃棄される予定のパラグライダーの生地を用意し、参加者が好きな部分を切り取って、自らのエコバッグを作成するというワークショップが行われた。

こうした機会を設けること

で、参加した子どもたちが楽しんでリサイクルなどについて学ぶ教育の機会（社会の側面）を提供している。さらに、このパラグライダー生地をファンション・レーベルが「HOZUBAG」と呼ばれるデザイン性の高いエコバッグとして継続的に販売し、その生地の裁断などを行う拠点が市内に設置されたことで、地域に雇用（経済の側面）も生み出されている。

この事例では、「廃棄物の発生」という問題を環境部門だけでなく、部署横断的に協力し、積極的に庁外の企業・団体等とも連携して「経済・社会・環境」の3側面の同時解決に資する打ち手を考えている。こうした解決策の見つけ方は、多様な課題への対応に追われる自治体にとって有効な切り口であり、ひいてはSDGsの達成にも貢献するアプローチとも言えよう。

（注）筆者が市参与（SDGsアドバイザー）を拝命している。

経済・社会・環境の3側面で捉える